

Serioso! —TIAAコンクール通信—

第8回エレーナ・リヒテル国際ピアノコンクール 終了！

2月15日（日）サンパール荒川にて「第8回エレーナ・リヒテル国際ピアノコンクール」本選、及び結果発表と表彰式を行いました。1月に東京と大阪で予選を、2月13日から3日間かけて二次予選と本選を行い、エレーナ・リヒテル教授をはじめとする審査員の前で全国から選ばれた精鋭たちがその腕を披露されました。このコンクールのためにロシアからいらしたエレーナ・リヒテル教授は、総評で「開催を重ねるたびに参加者の数やレベルが上がっていくのが嬉しい、このコンクールを通して皆様のピアノに対する情熱が増していくことに期待したい」とおっしゃっていました。今回は多数の応募者の中から各部門で最高位を受賞された3名よりメッセージを頂戴しましたので掲載致します。

小学生高学年部門 第1位 中山結菜さん

音楽を始めたきっかけと、コンクールに参加しようと思ったきっかけを教えてください。

——ピアノを習っていた姉が発表会で演奏するのを見て、私も弾いてみたいと思い習い始めました。ホールで弾くのは少しドキドキしますが、家で練習しているピアノとの響きの違いを感じながら演奏することは楽しみでもあります。今回、シューベルト作曲「3つの即興曲より第1番」を練習することになり、最初はとても大人っぽい曲なので、演奏できるかなと不安でした。しかし、今の私で感じたことをピアノで表現できるようにやってみようと思いました。そしてホールでどのように演奏できるかチャレンジしてみたくて、このコンクールに参加してみようと思いました。

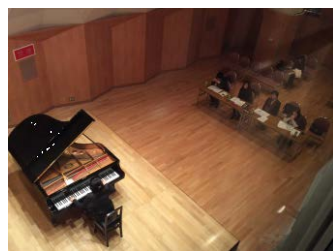
実際にコンクールを受けられた感想はいかがですか？



——予選の時は音色の変化があまりつけられず、単調になってしまいました。本選ではこの曲をホールで演奏する最後のチャンスなので、今まで練習してきたことを十分に表現出来たかなと思っていました。その為にも、演奏時には曲に集中し、自分の弾く音を良く聴くように心がけてみようと思いました。当日は緊張しましたが、弾き始めたら落ちついてきました。予選よりは集中して演奏出来たかなと思います。また、他の人の演奏も聴くことが出来て、とても刺激になりました。

今後の目標をお聞かせ下さい。

——今回第1位をいただいて本当に嬉しかったです。これからは曲のイメージをふくらませて、それをいろいろな音色で表現し、聴いて下さる方にもっと聴きたいと思っていただけるような演奏が出来るようにになりたいです。ピアノ以外のことにも興味を持ちながら、多くの素敵な曲を勉強して頑張っていきたいです。



（左）二次予選の様子
日暮里サニーホールにて行われました。



（右）表彰式の様子
教授自ら賞状をお渡しされました。

中学生部門 第1位 池崎功汰さん

コンクール当日の思い出をお聞かせ下さい。

——発表会とは違った雰囲気でも緊張しました。上手く弾こうと思えば思うほど思い描いていた演奏とかけ離れたものになってしまうので、CDを聴いて平常心を保つように心がけました。また、深く考えすぎると失敗してしまいそうなので、別の違う好きな曲を聴いてリラックスしていました。

池崎さんがピアノを始めたきっかけはなんですか？

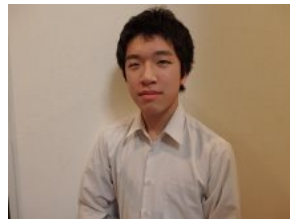
——ピアノを始めたのは、小学生の時、音楽の授業でピアノを弾いている先生を見てかっこいいなと思い、自分も弾いてみたいと思ったのがきっかけでした。

ではこのコンクールを受けようと思ったきっかけはなんですか？

——人それぞれ受ける意味や目標が違うと思いますが、僕はこの経験が自分を成長させてくれる過程の一つになるだろうと思い、コンクールに参加させて頂きました。

これからコンクールを受ける皆さんに一言お願い致します。

——後先をあまり考えず、自分が弾く曲の良い所を生かしていこう！と思えばいい結果が付いてくると思います。あまり気負いせず、普段の練習成果を出せるように頑張ってください。



高校生部門 第1位 山下響さん

普段演奏される時に気をつけていることはなんですか？

——いっどこで、誰の前で弾く時も、自分らしく弾くことを一番大切にしています。練習を重ねていくと、次々と課題がでてきて、本当に自分が表現したいことがぼやけて見失ってしまいそうになることがあります。そんな時、作曲家がどのような気持ちでどのような時代背景をもとに作ったのかを知り、自分なりに考え、今の自分にはどのように弾けるのか、弾きたいのかを考えるようにしています。そして、常に新鮮な気持ちで演奏できるようにありたいと思っています。

今後どのような音楽家になりたいと思いますか？

——作曲家が残してくれた曲を通じて自分の思いや感じたことを聞いて下さる方に伝えられるように、また聞きたいと思っていただけるような演奏ができるようになりたいと思います。そして素晴らしい音楽ができることに感謝して、日々精進をしていきたいです。

あなたにとって音楽とはなんですか？



——私の母が音楽をしていることもあり、いつも家では音楽が流れていました。中学生まではピアノは楽しく好きなように弾いているだけでした。高校へ入学する時に将来のことを考えるようになり毎日ピアノを弾くのが習慣のようになっていて、自分とは切り離せないものになっていることに気がきました。音楽は嬉しい時、悲しい時、どんな時もいつも私に勇気を与えてくれて、生活に欠かせないものです。言語の違う人たちとでも音楽が言葉となって気持ちを伝えることができることもあります。音楽とは、私の一部であり感じたことをそのままありのままに相手に伝えられるものだと思います。

コンクール担当より♪

当コンクールは、演奏家としてだけでなく、指導者としても世界で活躍されているエレーナ・リヒテル教授に演奏を評価して頂ける貴重なコンクールです。1次予選では各大学講師による講評もお配りしております。来年には第9回を開催させて頂くことも決定していますので、皆さんの参加を心よりお待ち申し上げます！